

アンケート概要

日本医師会様のご協力に基づき、全国の会員医師向けにアンケートを実施
PHR利活用におけるユースケースを把握した上で更なる活用の余地を探る

アンケートの目的

PHR利活用におけるユースケースの把握

- PHRを利用したことのある医師の傾向
- PHRデータの利用目的・利用の仕方

PHR利活用における課題・留意点の把握

- 理想的なPHRデータの利用目的・利用の仕方
- PHRデータの更なる活用に向けた必要な施策

実施時期

- 2023年1/11(水) - 1/27(金)

配信手法

- Webアンケート

対象者

- 日本医師会様からのご依頼に基づきご協力頂いた医師の方々

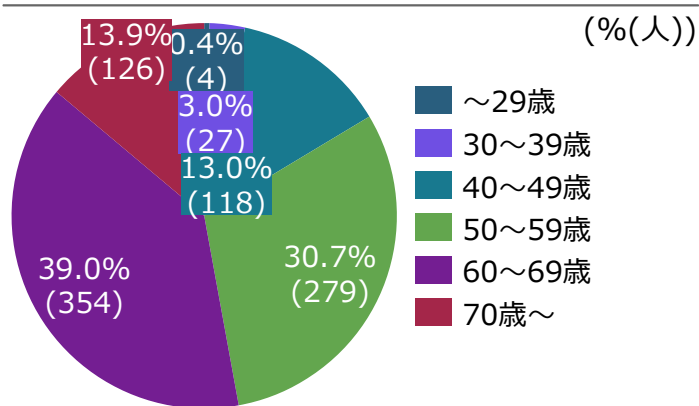
回答数

- 回答終了数はN=908
 - 回答着手数にはN=1,491
- うちPHR使用経験者は91名
- うちPHR使用未経験者は817名

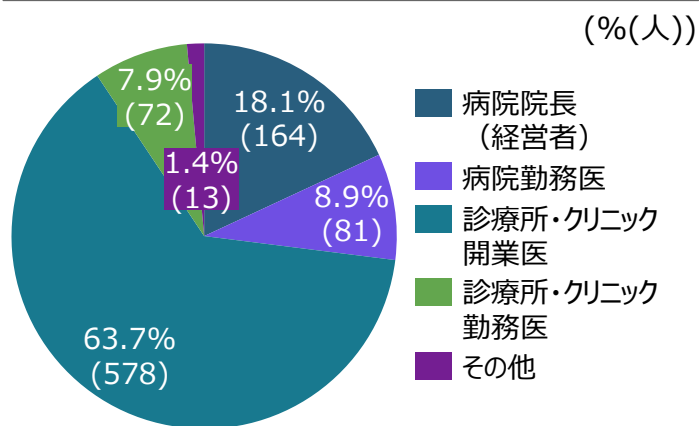
アンケートの回答者属性 (N=908)

50代・60代、開業医・病院院長が多数を占め、診療科は内科・消化器外科が多い

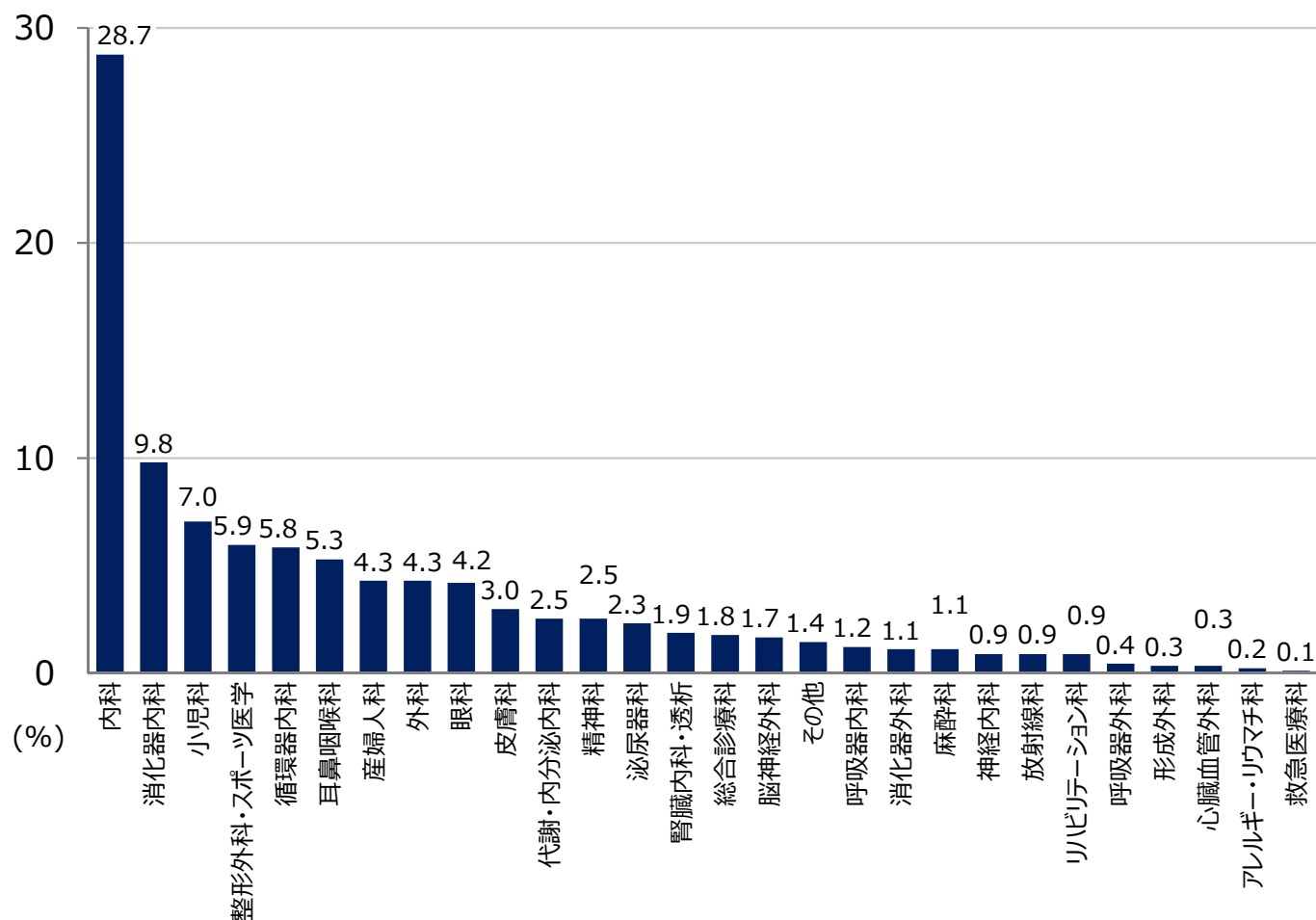
年齢



勤務体系



担当診療科

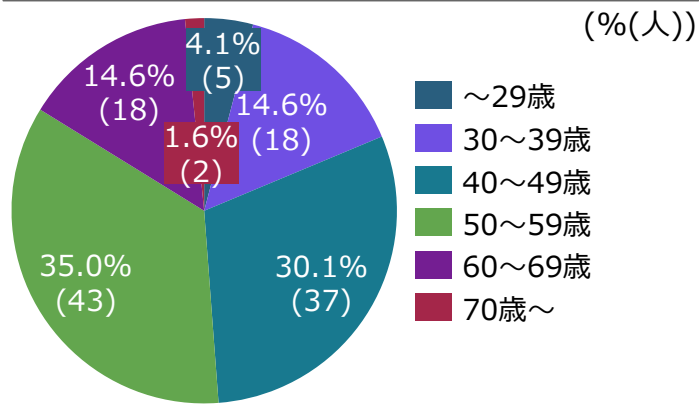


(出典) 医師アンケート (2023年1/11(水) - 1/27(金)に実施)

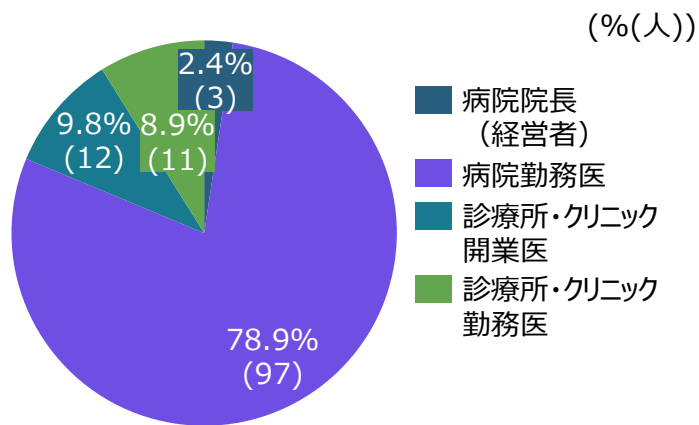
参考) 令和2年度調査時のアンケートの回答者属性 (N=123)

40代・50代、病院勤務医が多数を占め、診療科は内科・精神科が多い

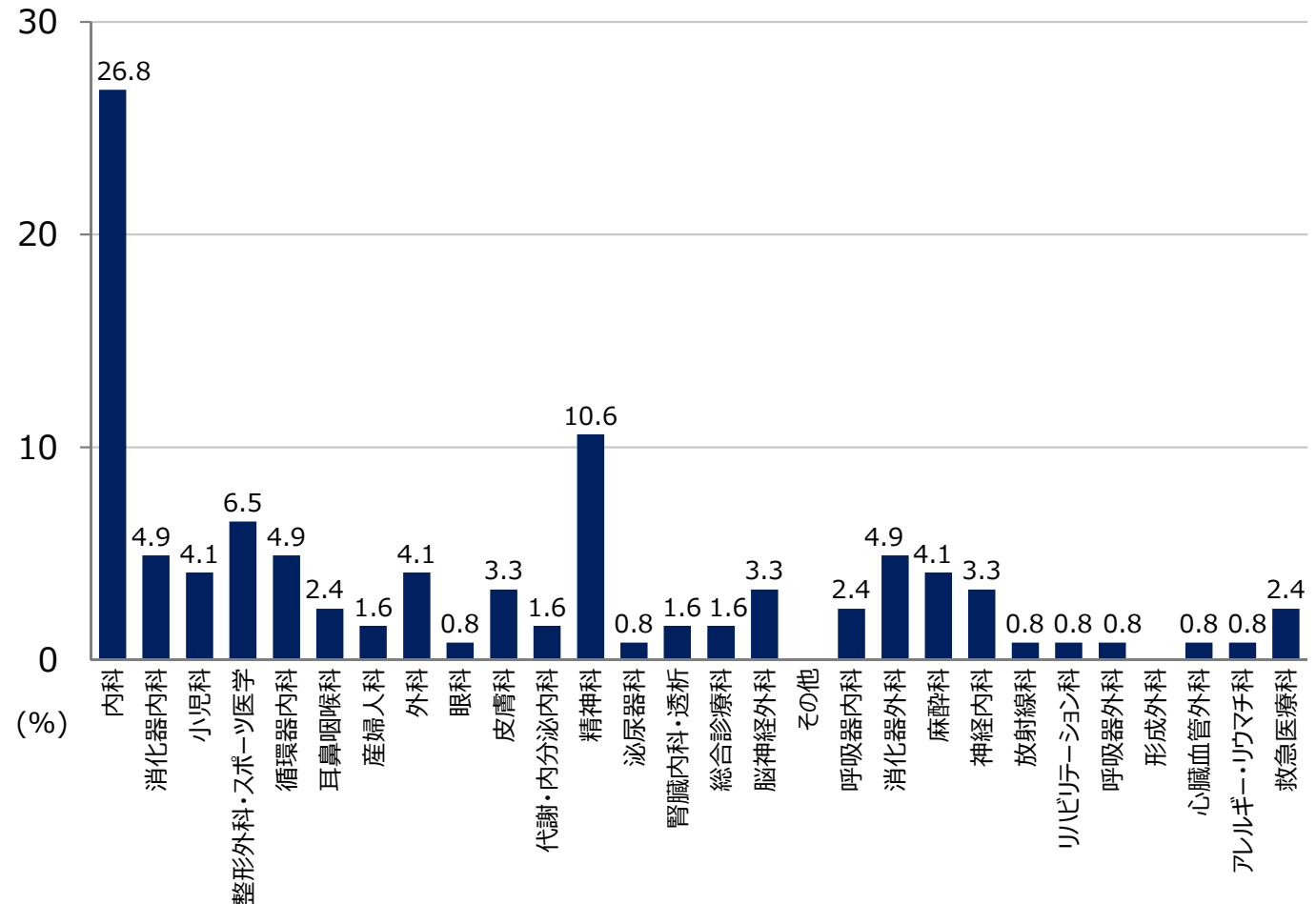
年齢



勤務体系



担当診療科



Key Findings(1/2)

カテゴリ	論点	Key Findings
PHR活用におけるユースケース	① PHRを利用したことのある医師にはどのような傾向がみられるか？	以下設問の回答を踏まえて作成 <ul style="list-style-type: none">1-1.年代、勤務体系1-2.担当診療科
	② PHRデータを利用した目的は何か？	以下設問の回答を踏まえて作成 <ul style="list-style-type: none">3-8.PHRデータを利用しようと思った理由3-9.実際に利用してよかった点

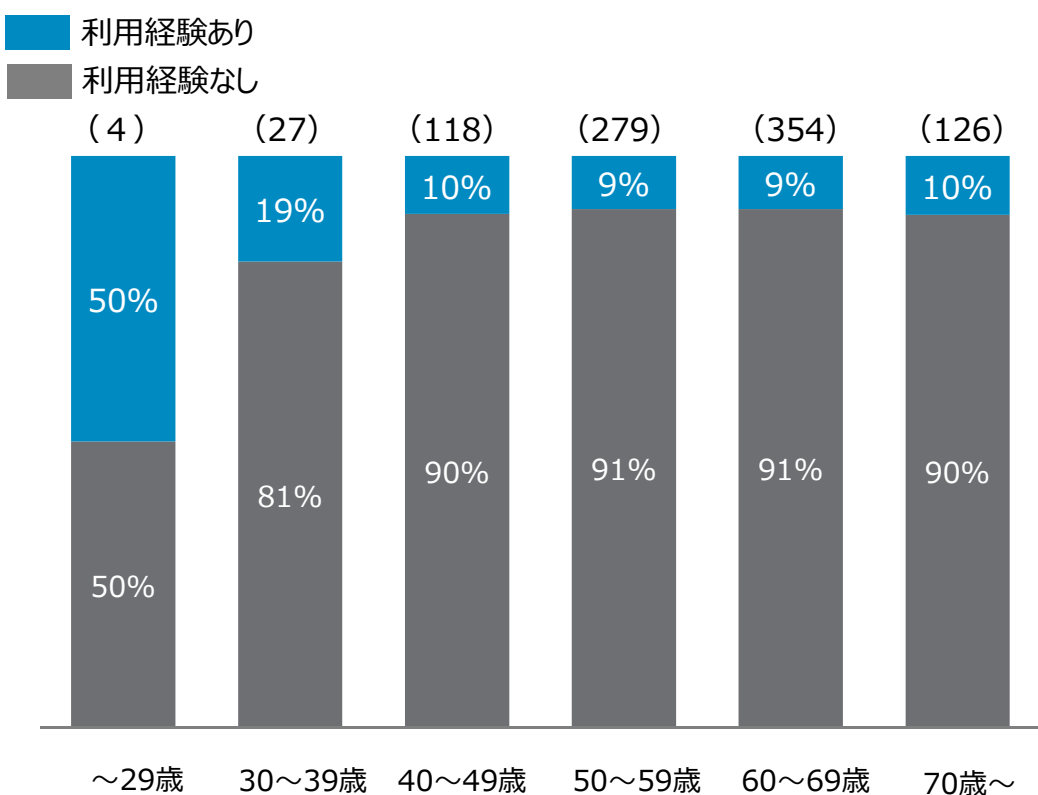
Key Findings(2/2)

カテゴリ	論点	Key Findings
PHR利活用における課題・留意点	③ 理想的にはPHRデータをどのように活用したいのか？	<p>以下設問の回答を踏まえて作成</p> <ul style="list-style-type: none">2-2. 特にニーズが高いと思うターゲット属性2-3. 特にニーズが高いのはどのようなサービス <p>以下設問の回答を踏まえて作成</p> <ul style="list-style-type: none">2-1. 利用価値が高いと思うデータ3-3. 診療に有用だと感じるPHRデータの取得経路3-5. PHRデータを確認したいタイミング3-7. PHRデータの理想的な利用・閲覧方法
	④ PHRデータを更に活用してもらうために必要なものは？	<p>以下設問の回答を踏まえて作成</p> <ul style="list-style-type: none">3-3/3-12. PHRへの期待値PHRを利用したことがある医師<ul style="list-style-type: none">3-10. 使用して困った点3-11. 今後さらに活用するために必要なものPHRを利用したことがない医師<ul style="list-style-type: none">3-1. 今までPHRデータを使用しなかった理由3-2. 今後PHRデータを活用するために必要なもの

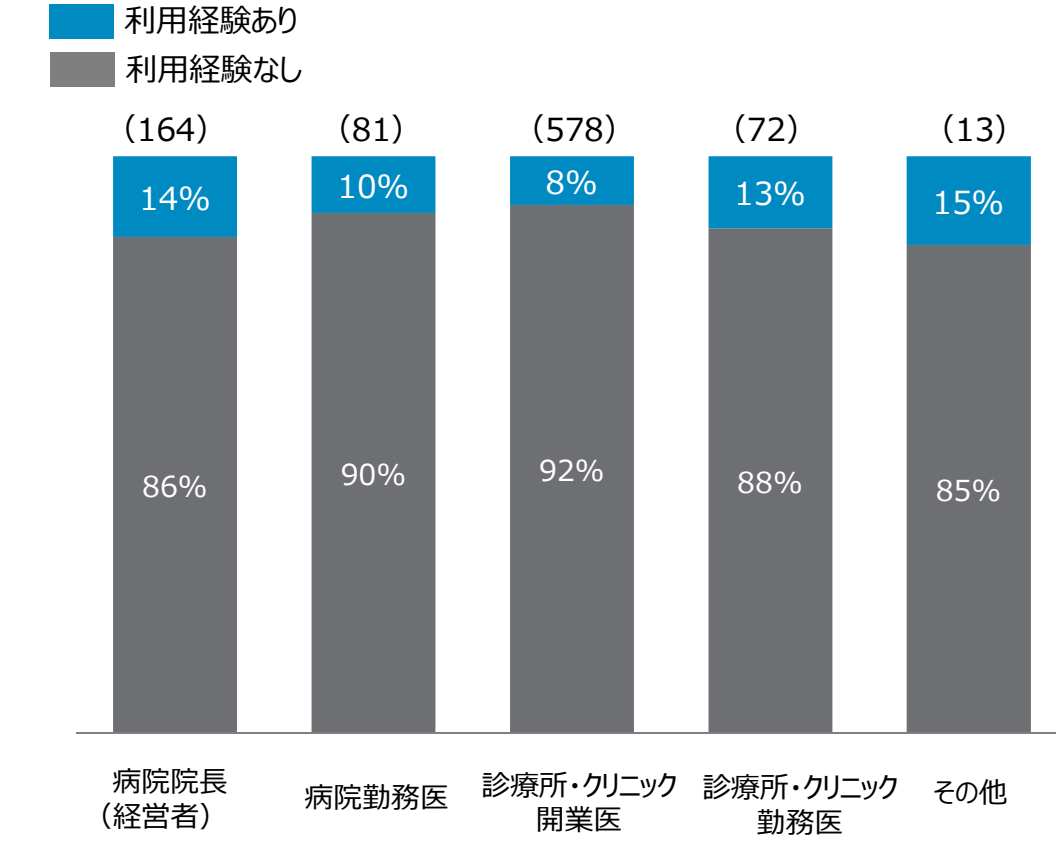
1 PHRを利用したことのある医師の傾向(1/2) –年代・勤務体系

年代別では若年層ほど利用経験者割合が高く、勤務体系間よりも大きな差異が見られる

医師の年代別 PHRデータの利用経験の有無比率¹
(n=908名) (%(人))



勤務体系別 PHRデータの利用経験の有無比率¹
(n=908名) (%(人))



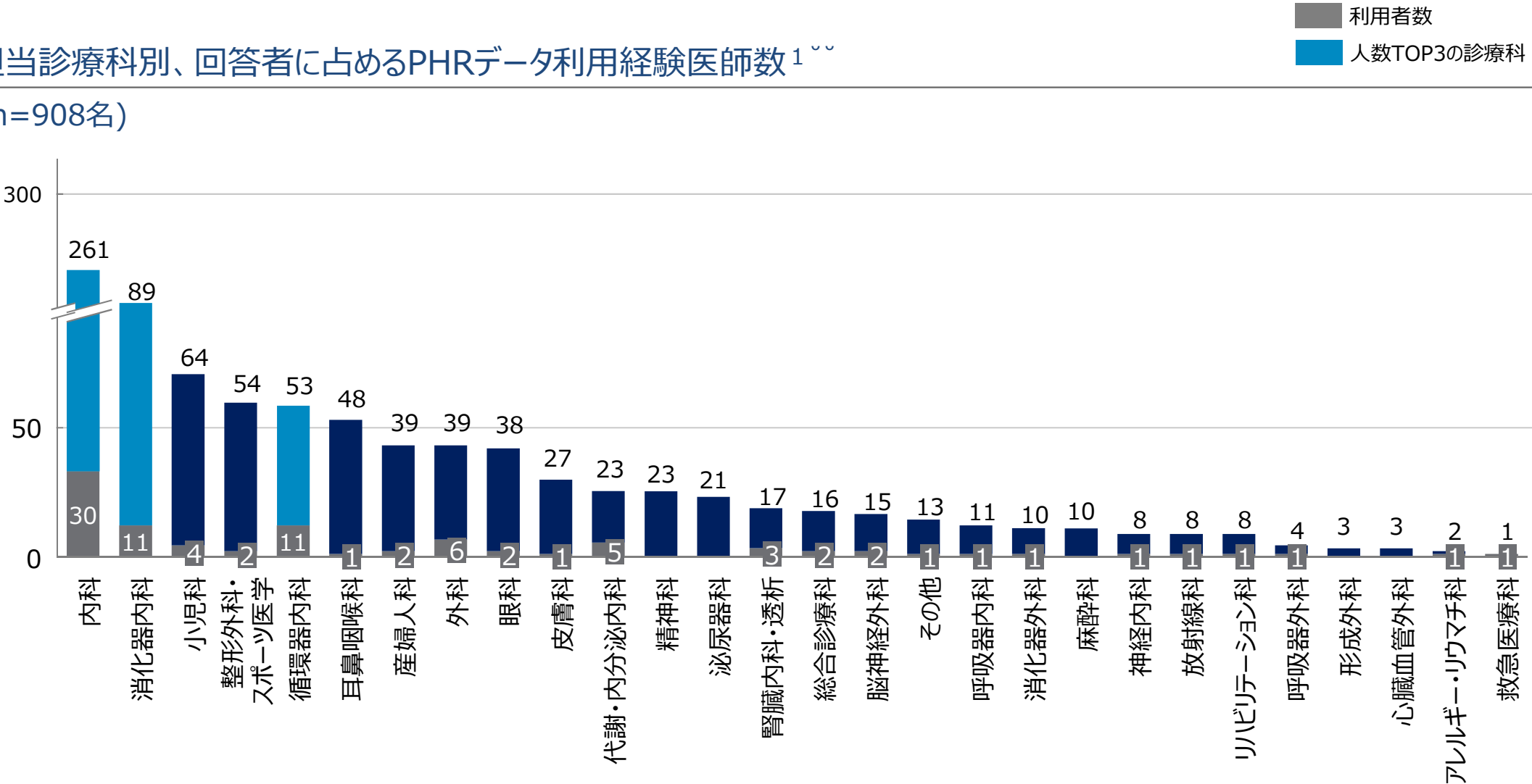
1. 医師へのアンケート調査において、PHRデータを「現在利用している」または「過去に利用したことがある」と回答したユーザを利用経験有りの医師とみなし、PHRデータを「今までに利用したことがない」と回答したユーザを利用経験無しの医師とみなす

1 PHR利用経験有の医師傾向 (2/2) -担当診療科毎の人数・構成比率

「内科」「消化器内科」「循環器内科」におけるPHR経験者が多い

担当診療科別、回答者に占めるPHRデータ利用経験医師数¹⁾

(n=908名)



1. 医師へのアンケート調査において、PHRデータを「現在利用している」または「過去に利用したことがある」と回答したユーザー

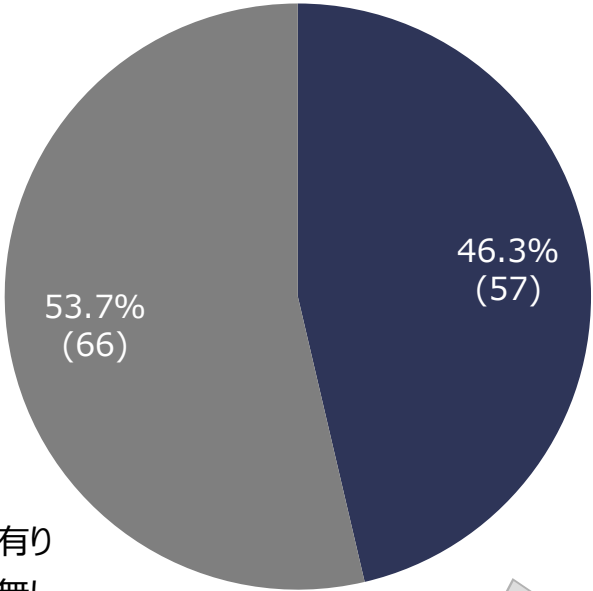
1 経年) PHR利用率の推移

令和2年度アンケートに比べるとPHR使用率は低下しているが、主に回答者のリクルーティング経路の違い、及び結果としての回答者属性の違いに依るもの大きいと考えられる

PHRデータの利用経験 (令和2年度)

(n=123名)

(%(人))



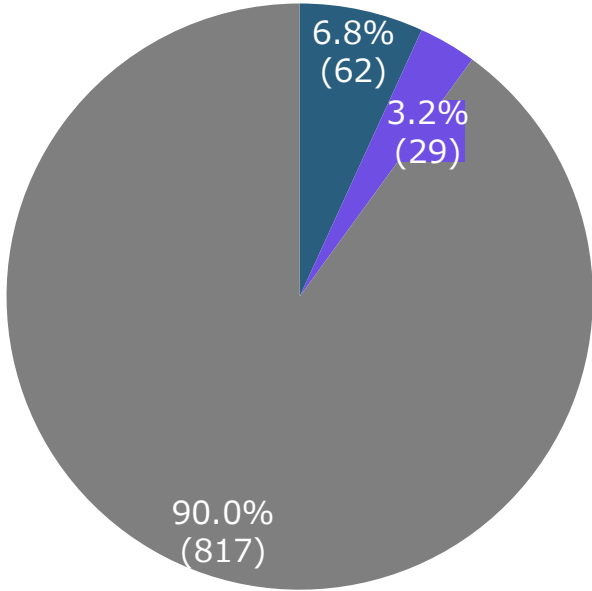
■ 活用経験有り
■ 活用経験無し

一般ウェブサーベイを通してリクルーティングしたため、インターネットに親和性の高い層が多く回答した可能性が高く、PHR使用率が実際より高く出ている可能性

PHRデータの利用経験 (令和4年度)

(n=908名)

(%(人))



■ 現在利用している
■ 過去に利用したことがある
■ 今まで利用したことがない

医師会経由を通してリクルーティングしたため、偏りなくリクルーティングされている可能性

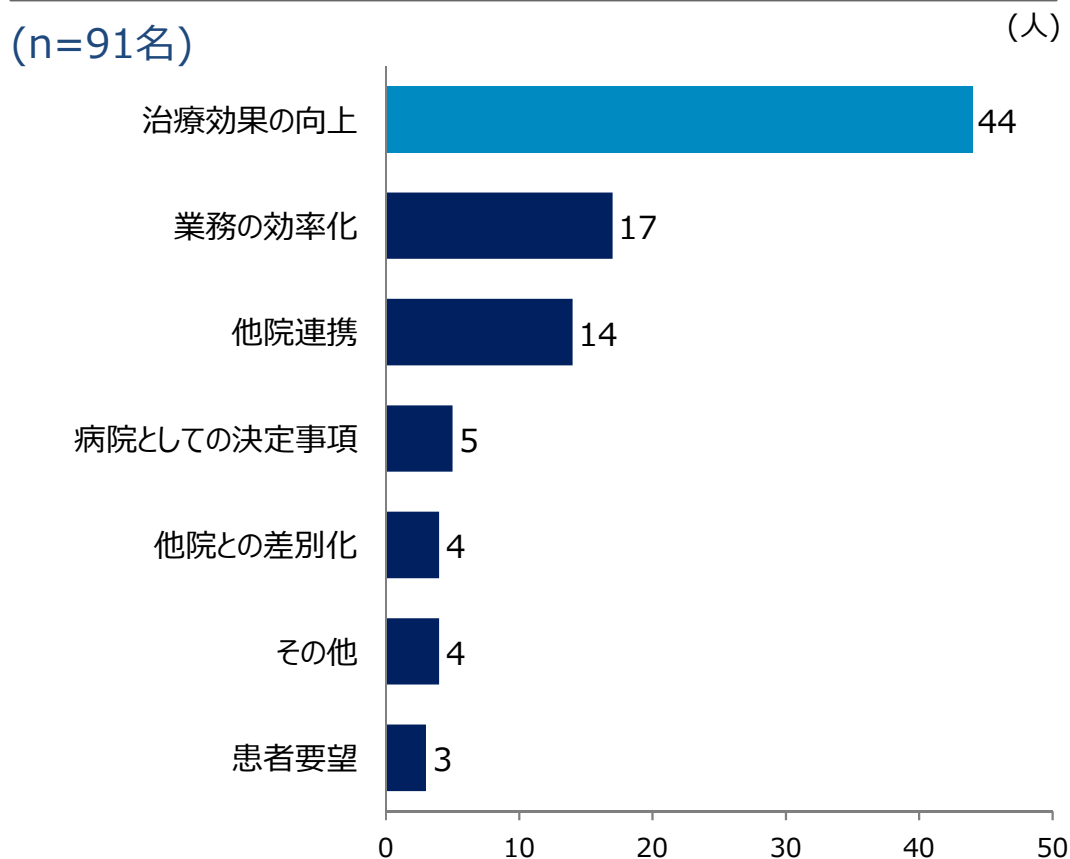
1. 令和2年度調査資料から引用。“活用経験有り”の回答は設問「実際の診療でデバイス・アプリから取得できるバイタルデータや日常生活データを参考に活用したことはありますか」に対し「対面診療ではある」「オンライン診療ではある」「両方ある」と答えた人の合算値

2 PHRデータの利用目的

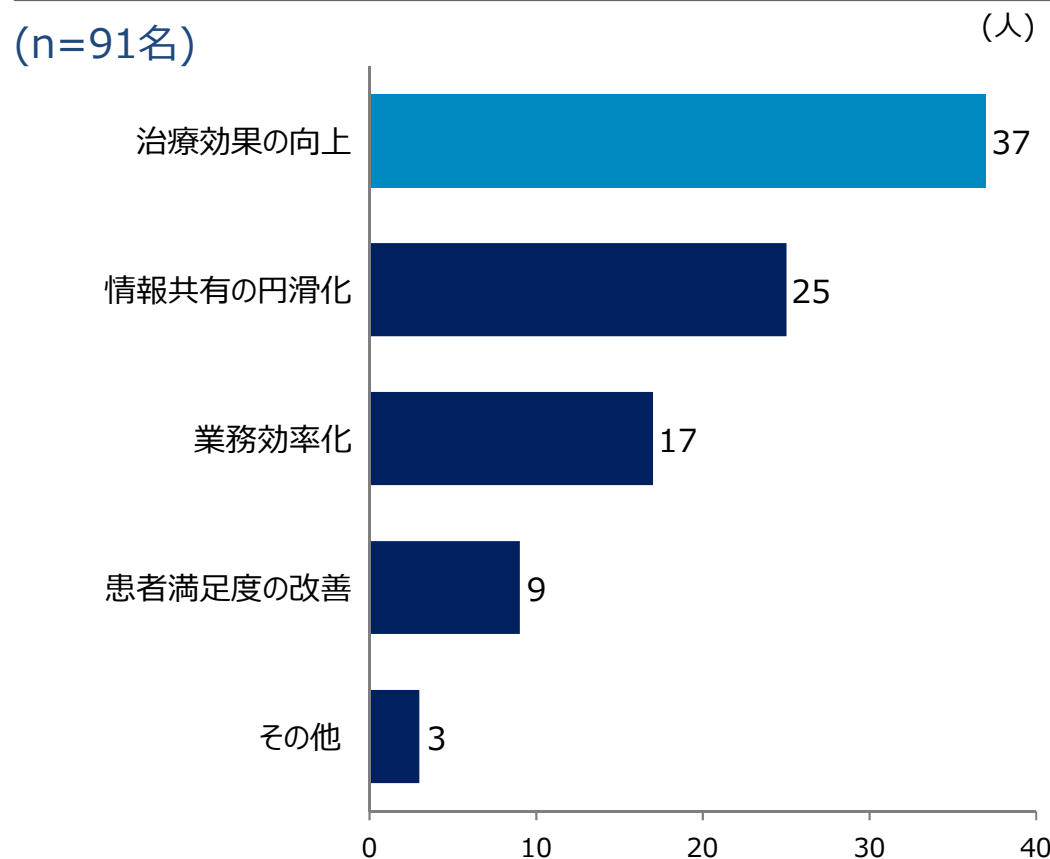
治療効果向上を目的にPHRデータを使用する医師が最も多く、実際に効果に満足する医師が多い

■ 最も多かった回答

PHRデータ・サービスを使用しようと思った理由¹



PHRデータ・サービスを使用してみて最も良かった点¹



1. 医師へのアンケート調査において、PHRデータを「現在利用している」または「過去に利用したことがある」と回答したユーザーのみを対象とした設問

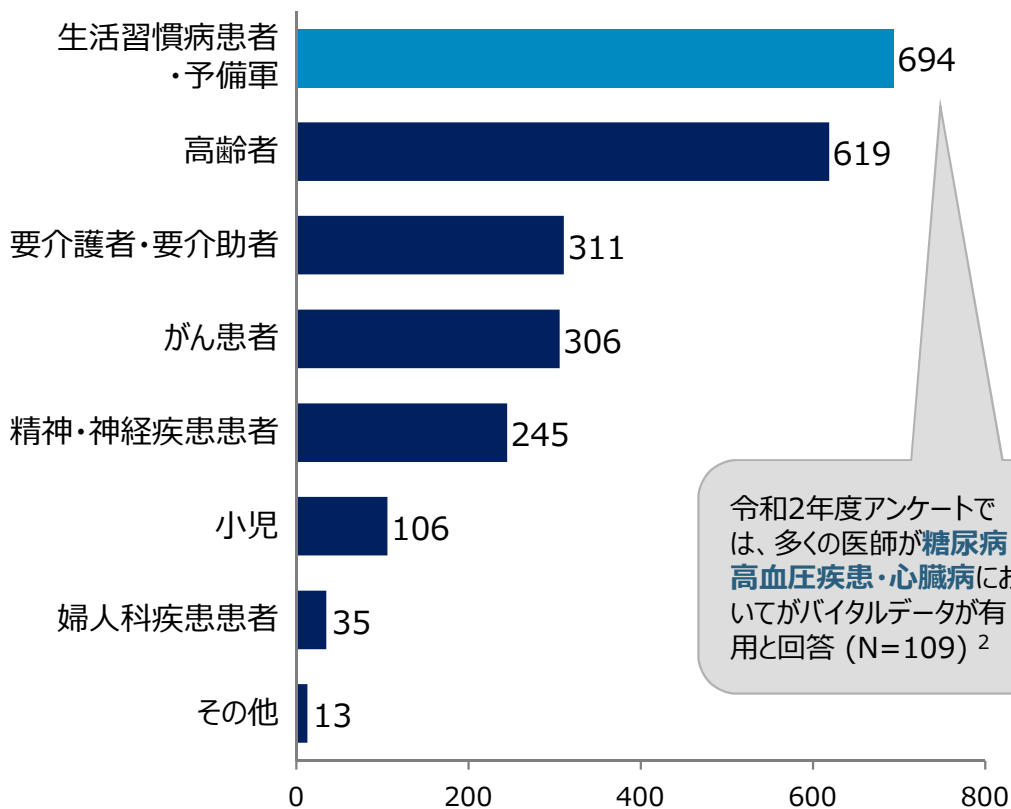
4 理想的なPHR活用の在り方(1/4) -ターゲットユーザ・目的

生活習慣病患者に対するPHR活用が期待され、診療支援の利用ニーズが大きい

ニーズが高いと思われるターゲット属性¹

(n=908名：複数回答可)

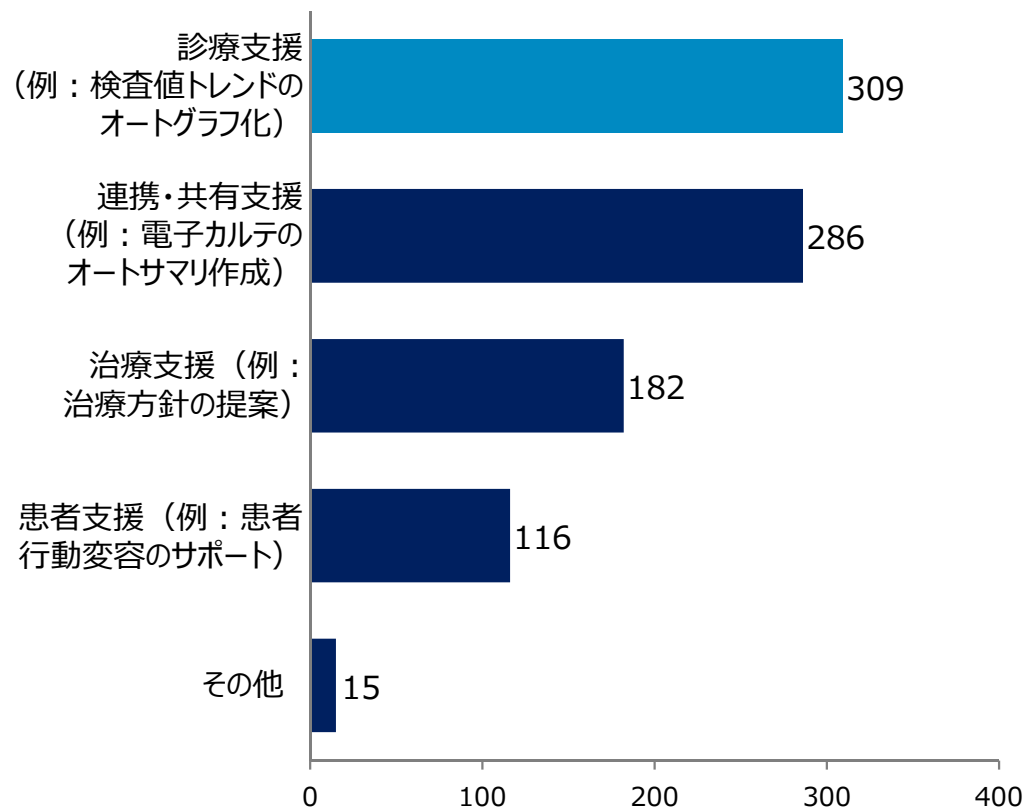
(回答数)



ニーズが高いと思われるPHRデータの利用目的¹

(n=908名)

(人)



1. 医師へのアンケート調査において、PHR使用経験なしの人の回答も含む 2. 令和2年度調査資料引用。診療時にデータを参考にしたい・すでに参考していると回答した医師109名のうち、有用性が高いと思われる疾病について回答。疾病×バイタルデータ種類毎の回答のうち疾病毎に平均値を取った上で30%以上の医師が有用と答えた疾患を抽出

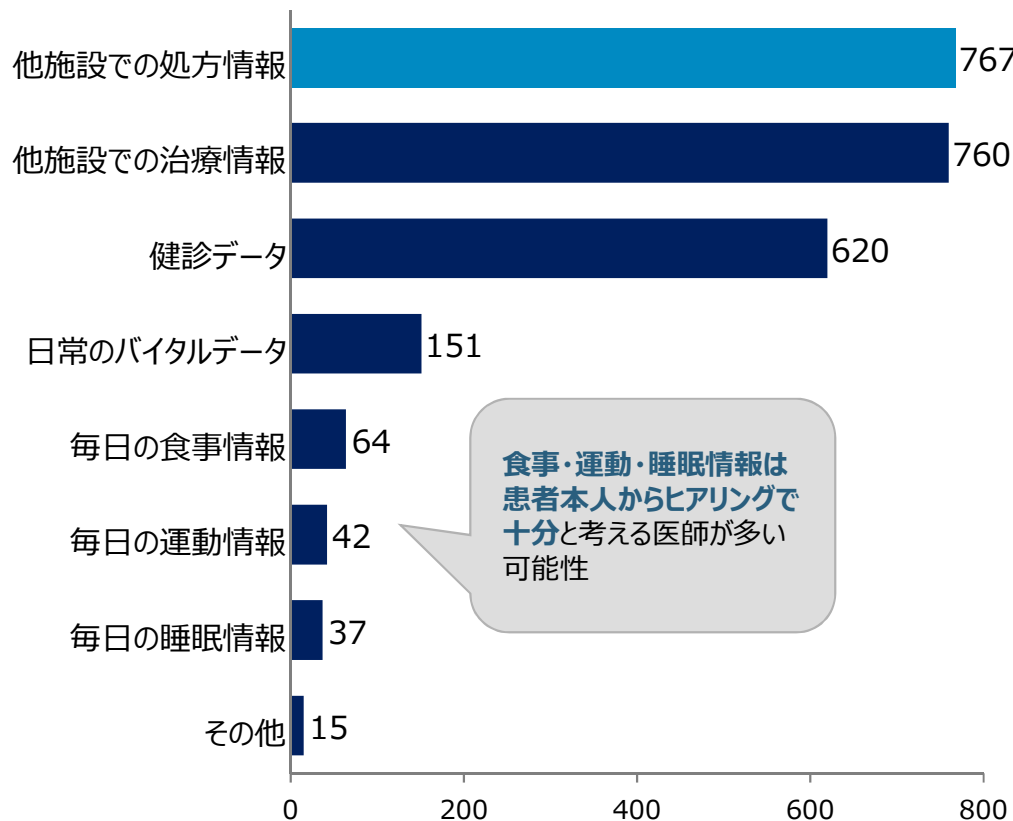
4 理想的なPHR活用の在り方(2/4) -データの種類

他施設での処方・治療情報、及び検診データの価値が高いと評価され、非医療機関生成情報の中では「日常のバイタルデータ」、次いで「食事情報」が評価されている

診療において利用価値が高いPHRデータ¹

(n=908名：複数回答可)

(回答数)

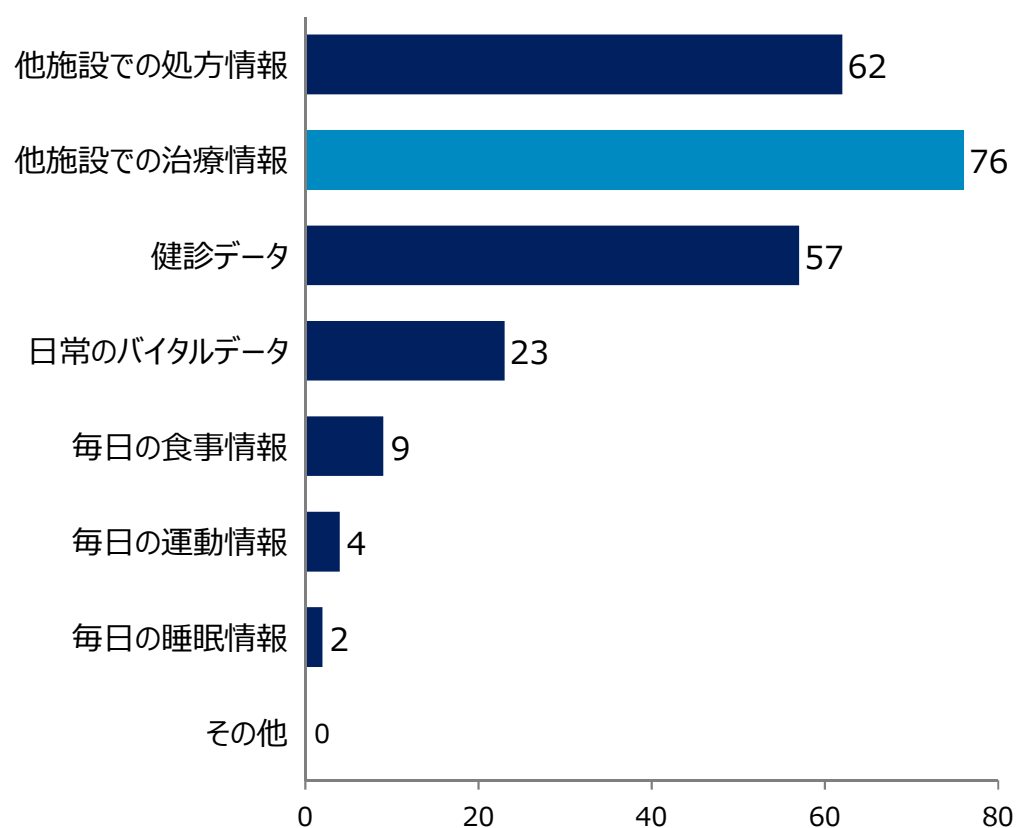


食事・運動・睡眠情報は患者本人からヒアリングで十分と考える医師が多い可能性

PHR利用経験がある医師における、診療において利用価値が高いPHRデータ²

(n=91名：複数回答可)

(回答数)



1. 医師へのアンケート調査において、PHR使用経験なしの人の回答も含む

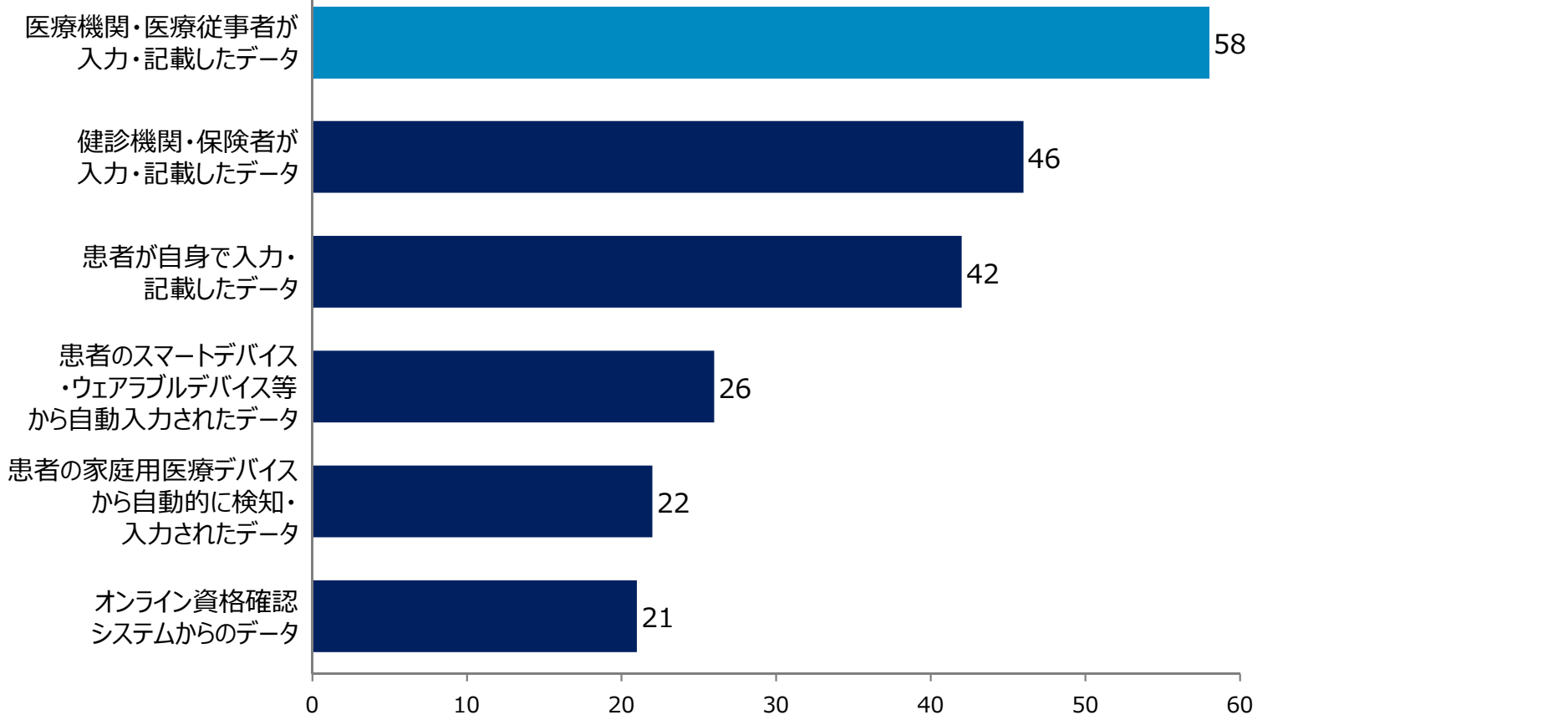
2. 医師へのアンケート調査において、PHRデータを「現在利用している」または「過去に利用したことがある」と回答したユーザーのみを対象とした設問

4 理想的なPHR活用の在り方(3/4) -データの取得経路

PHRを利用した医師は他医療機関で入力されたデータの価値が高いと評価

PHR利用経験がある医師における、診療に有用だと思うPHRデータの入手経路¹

(n=91名：複数回答可)



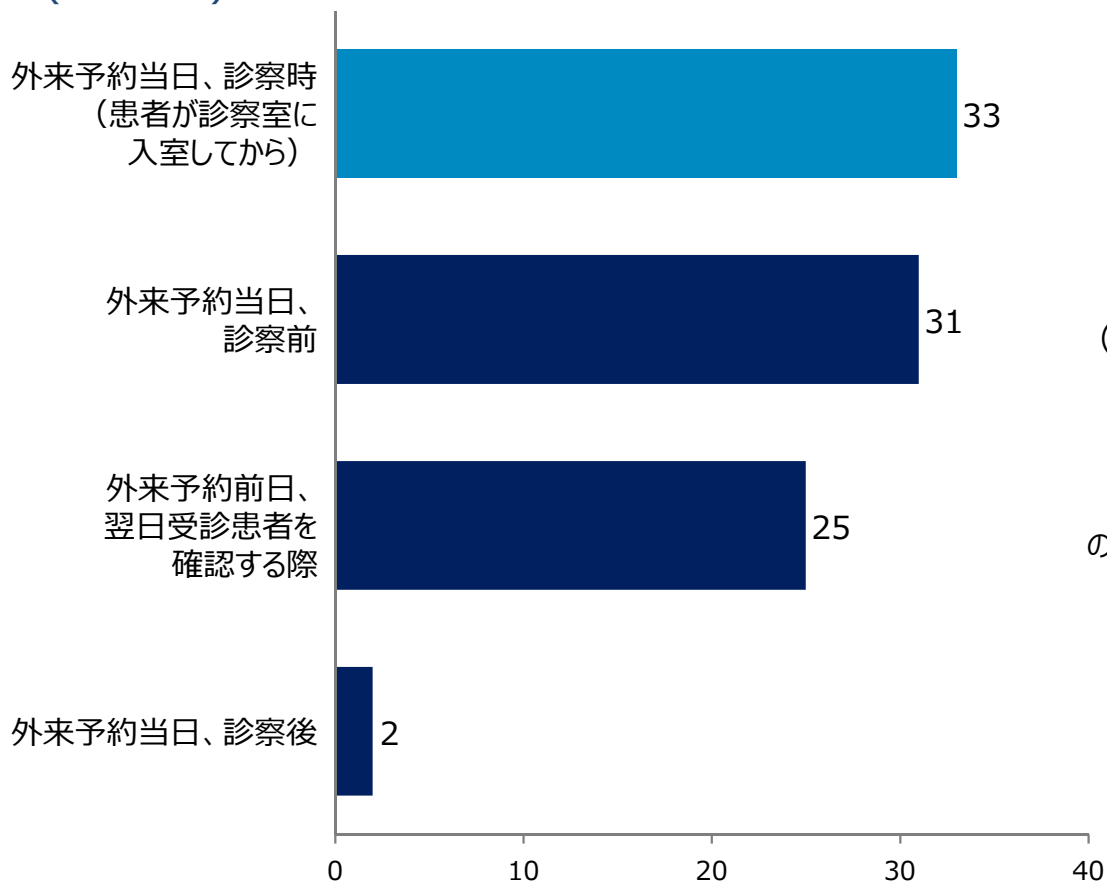
1. 医師へのアンケート調査において、PHRデータを「現在利用している」または「過去に利用したことがある」と回答したユーザのみを対象とした設問

4 理想的なPHR活用の在り方(4/4) -データの確認タイミング・閲覧方法

PHRを活用する医師は主に診察時入室後のタイミングで電子カルテ上でPHRデータを閲覧することを所望する傾向。SOAPといった医療看護記録にPHRデータを使用したい可能性

PHRデータを確認したいタイミング¹

(n=91名)



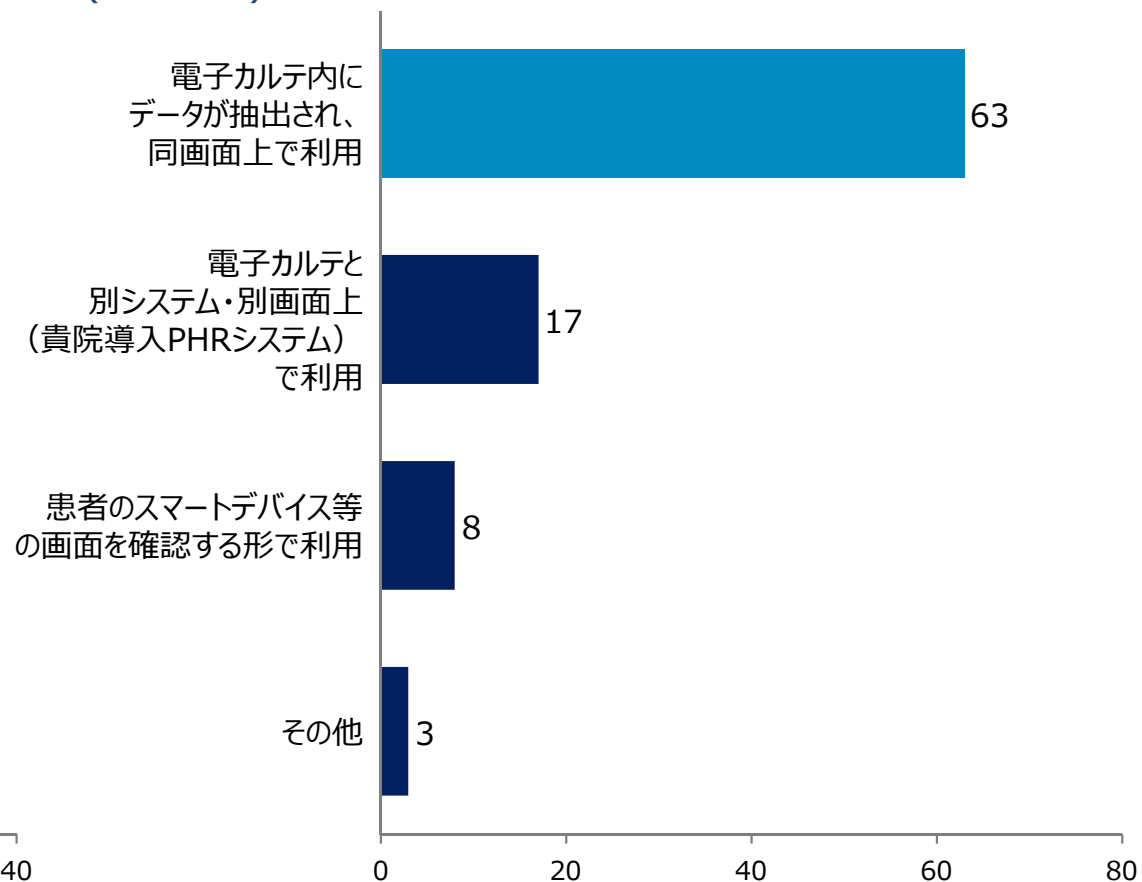
PHRデータの望ましい利用・閲覧方法¹

最も多かった回答

(n=91名)

(人)

(人)



1. 医師へのアンケート調査において、PHRデータを「現在利用している」または「過去に利用したことがある」と回答したユーザのみを対象とした設問

5 更なる活用に向けた施策(1/3)-PHRへの期待値

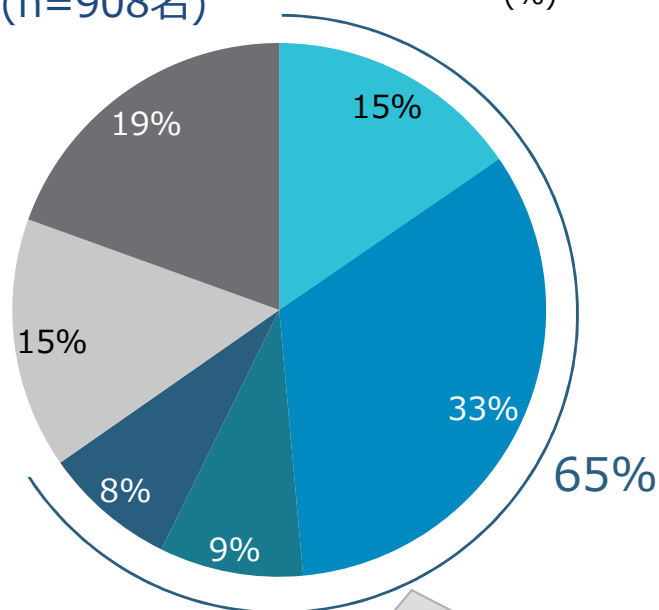
PHR利用経験有の医師は9割以上が活用に期待をし続け、経験無の医師においても6割が活用に期待をしており、過去より期待値が上がっている傾向

■ 積極的に活用したい
 ■ 機会があれば活用したい
 ■ 患者からの要望があれば活用したい
 ■ 何らかの対価があれば活用したい
 ■ 慎重に検討したい
 ■ まだ分からない

回答者全体の
PHRへの期待値

(n=908名)

(%)

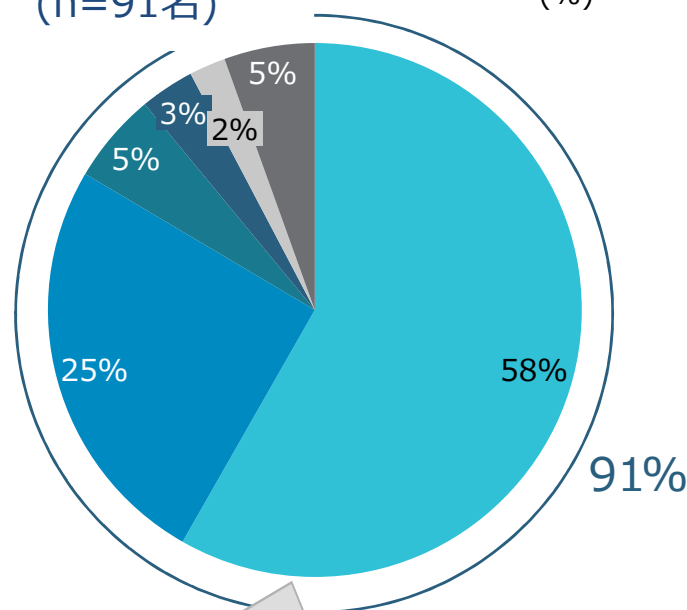


令和2年度アンケートでは、PHRを既に活用している+今後PHRを活用したいと回答した医師は**75%¹ (92名)** 存在 (N=123)。但しリクルーティングの差、また令和2年度では**PHR利用経験有の医師には期待値についてはアンケートを不実施**など条件は異なる

PHR利用経験有の医師の
PHRへの期待値

(n=91名)

(%)

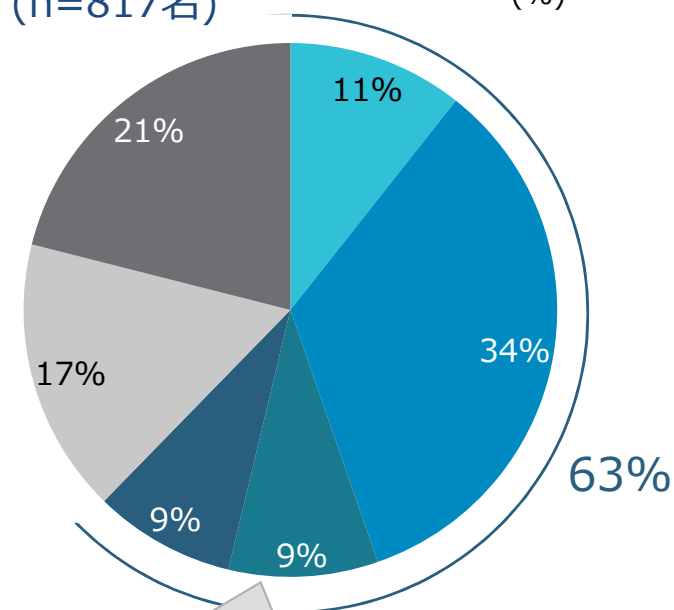


令和2年度アンケートでは、PHRを活用したことがある医師にはPHRへの期待値についてアンケート不実施 (N=57)

PHR利用経験無の医師の
PHRへの期待値

(n=817名)

(%)



令和2年度アンケートでは、PHRを活用したことないが今後活用したいと回答した医師は**53%¹ (35名)** 存在 (N=66)

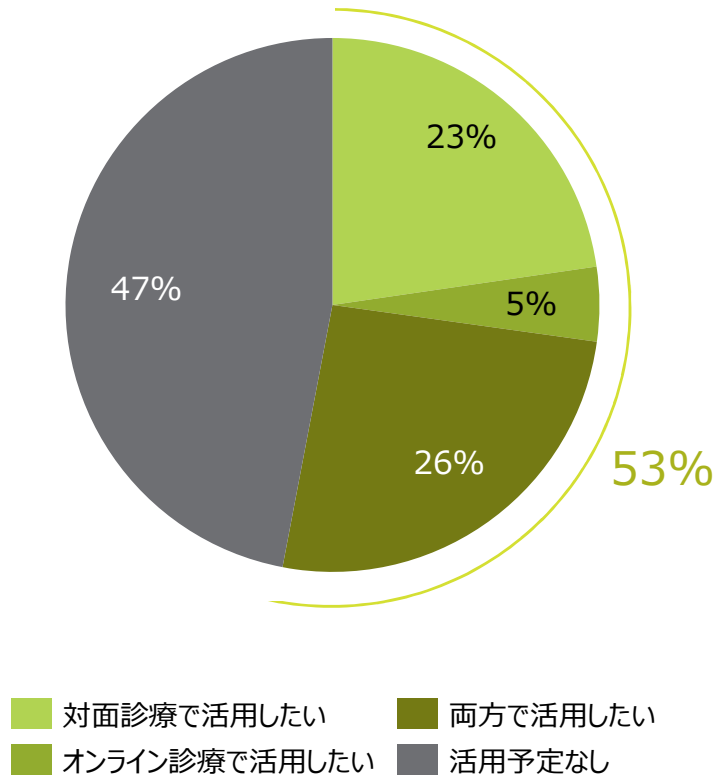
1. 令和2年度調査資料引用。PHRを活用したことない医師に対し、「今後機会があれば、診療時にバイタルデータや日常生活データを参考に活用したいですか」という設問に対し「対面診療では活用したい」「オンライン診療で活用したい」「両方で活用したい」と回答した人の比率

5 経年) 更なる活用に向けた施策(1/3)-PHR利用経験無の医師におけるPHRへの期待値

経験無の医師においても、過去よりPHRへの期待値が1割増

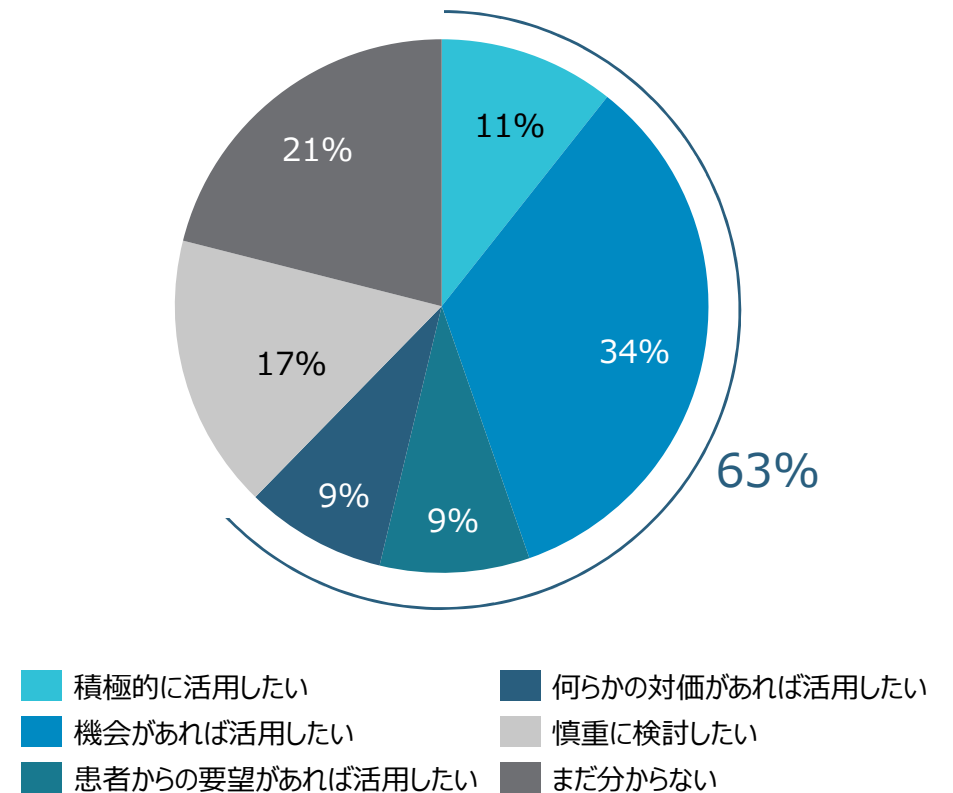
PHR利用経験無の医師のPHRへの期待値¹
(令和2年度)

(n=66名) (%)



PHR利用経験無の医師のPHRへの期待値²
(令和4年度)

(n=817名) (%)



1. 令和2年度調査資料引用。PHRを活用したことない医師に対し、「今後機会があれば、診療時にバイタルデータや日常生活データを参考に活用したいですか」という設問に対し「対面診療では活用したい」「オンライン診療で活用したい」「両方で活用したい」と回答した人の比率 2. 医師へのアンケート調査において、PHRデータを「今まで利用したことがない」と回答したユーザのみを対象とした設問

5 更なる活用に向けた施策(2/3)-PHRデータを利用したことのある医師

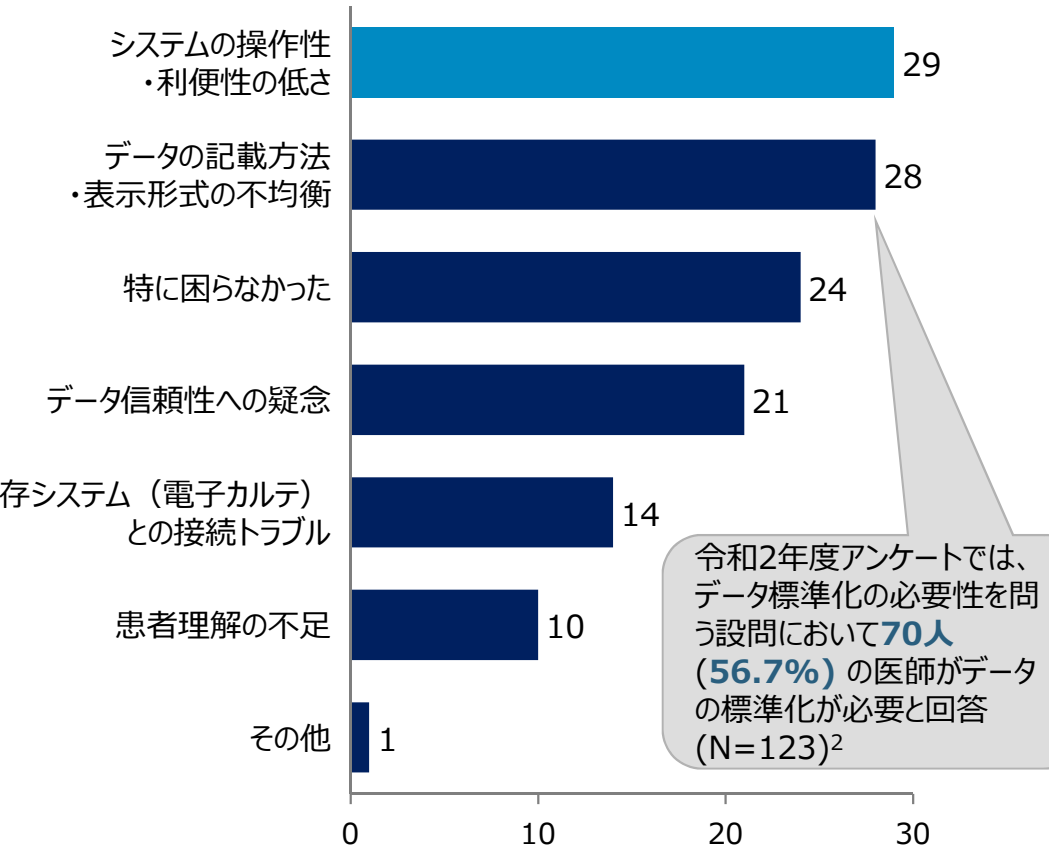
PHRに対する不満を特に感じない医師が一定数存在する一方で、より利用を促進するにはシステムの操作性向上・データの標準化が求められている

■ 最も多かった回答

PHRデータ・サービスを使用して最も困った点¹

(n=91名：複数回答可)

(回答数)

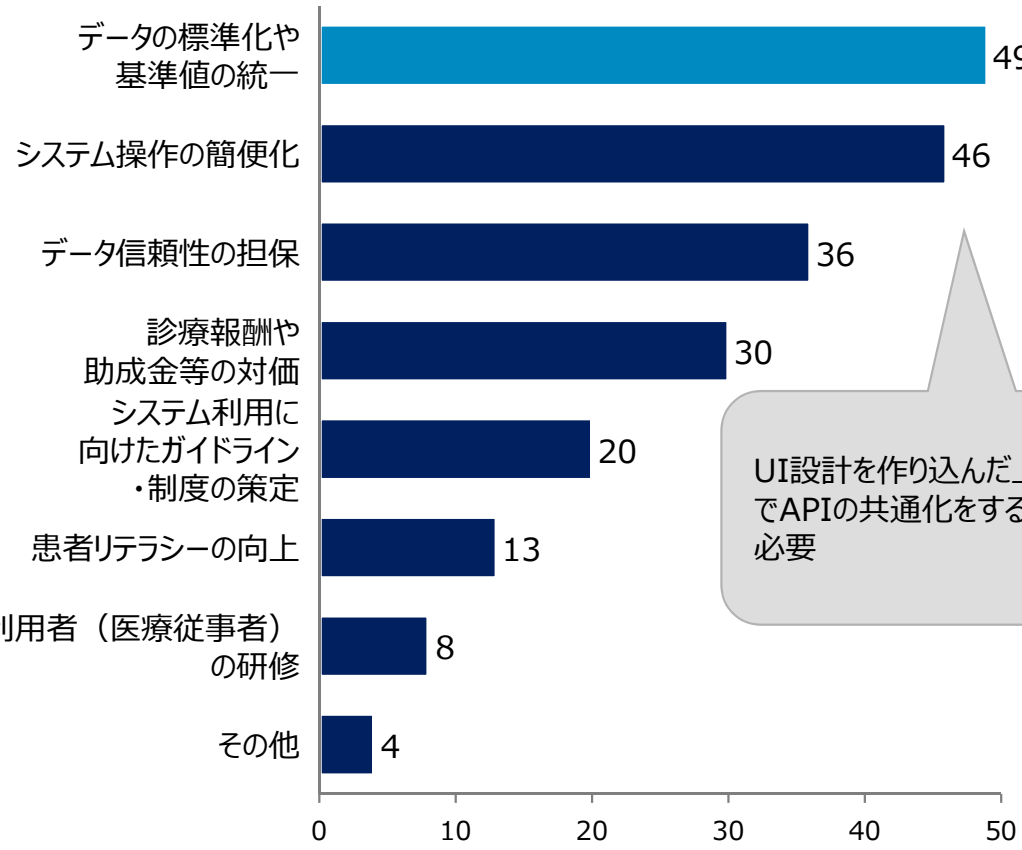


令和2年度アンケートでは、データ標準化の必要性を問う設問において**70人(56.7%)**の医師がデータの標準化が必要と回答(N=123)²

PHRデータを今後活用するために必要なもの¹

(n=91名：複数回答可)

(回答数)



UI設計を作り込んだ上でAPIの共通化をする必要

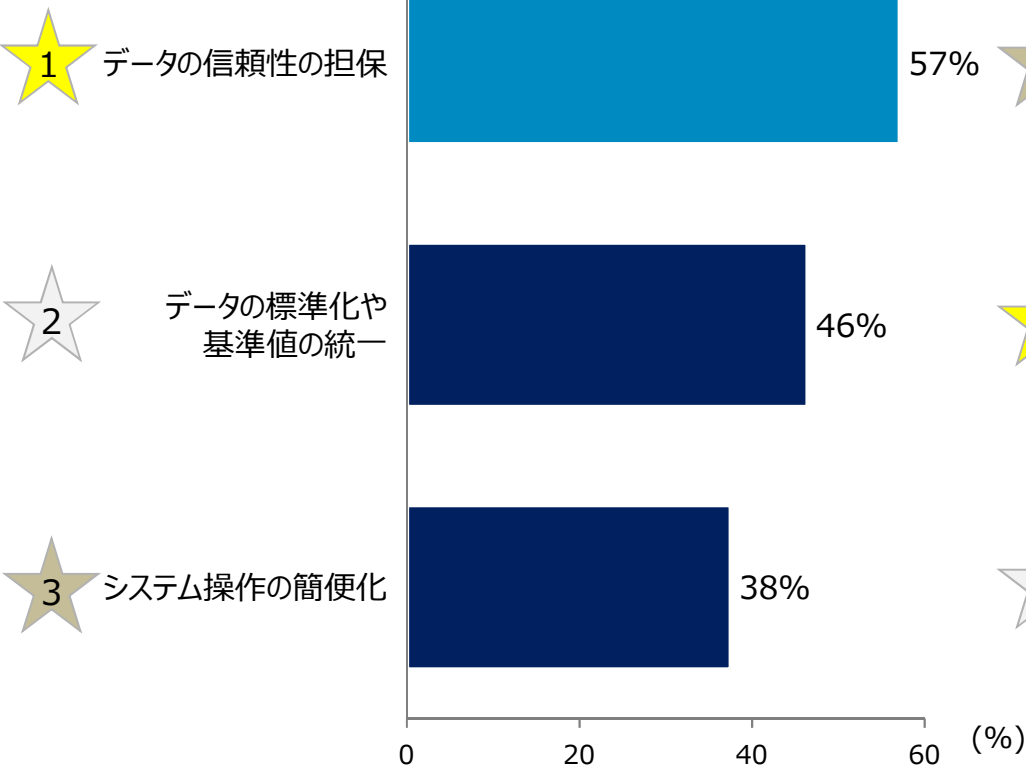
1. 医師へのアンケート調査において、PHRデータを「現在利用している」または「過去に利用したことがある」と回答したユーザのみを対象とした設問 2. 令和2年度調査資料引用。アンケート回答者123名全員を対象としているため、本調査と分母は異なる。設問は「デバイス・アプリから取得できるデータの標準化」についてを問う

5 経年) PHRデータを利用経験有の医師が感じるPHR必要改善点TOP3

令和2年度と比較しデータの標準化・システム操作の易化のニーズが強まった傾向。医師間でPHRの信頼性が高まり、標準化が課題という結果が多数を占めた

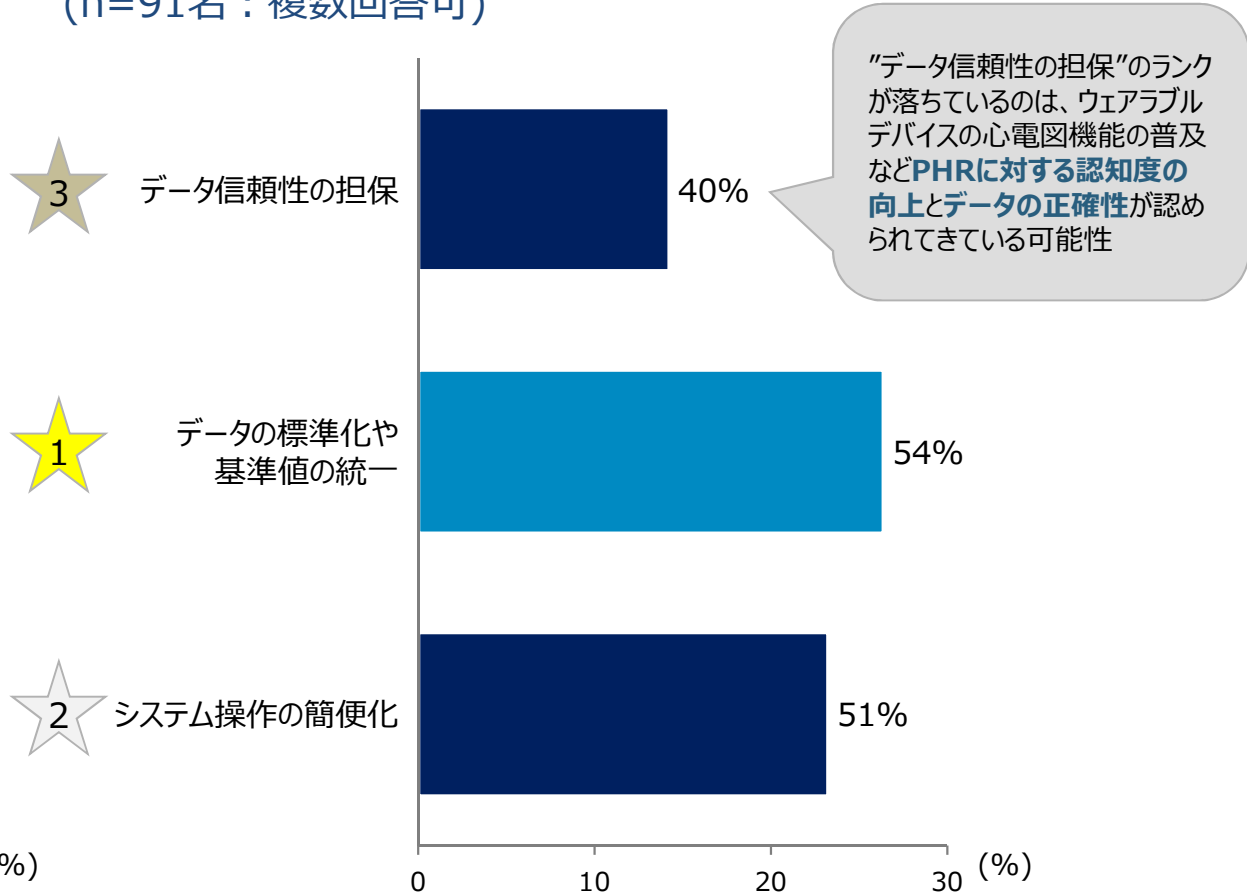
PHRデータを今後活用するために必要なもの¹
(令和2年度)

(n=56名：複数回答可)



PHRデータを今後活用するために必要なもの²
(令和4年度)

(n=91名：複数回答可)



1. 令和2年度調査資料から引用。実際に活用したい医師を対象に「診療時にバイタルデータや日常生活データを参考に活用した際に感じた」改善点についての回答（複数回答可） 2. 医師へのアンケート調査において、PHRデータを「現在利用している」または「過去に利用したことがある」と回答したユーザーのみを対象とした設問

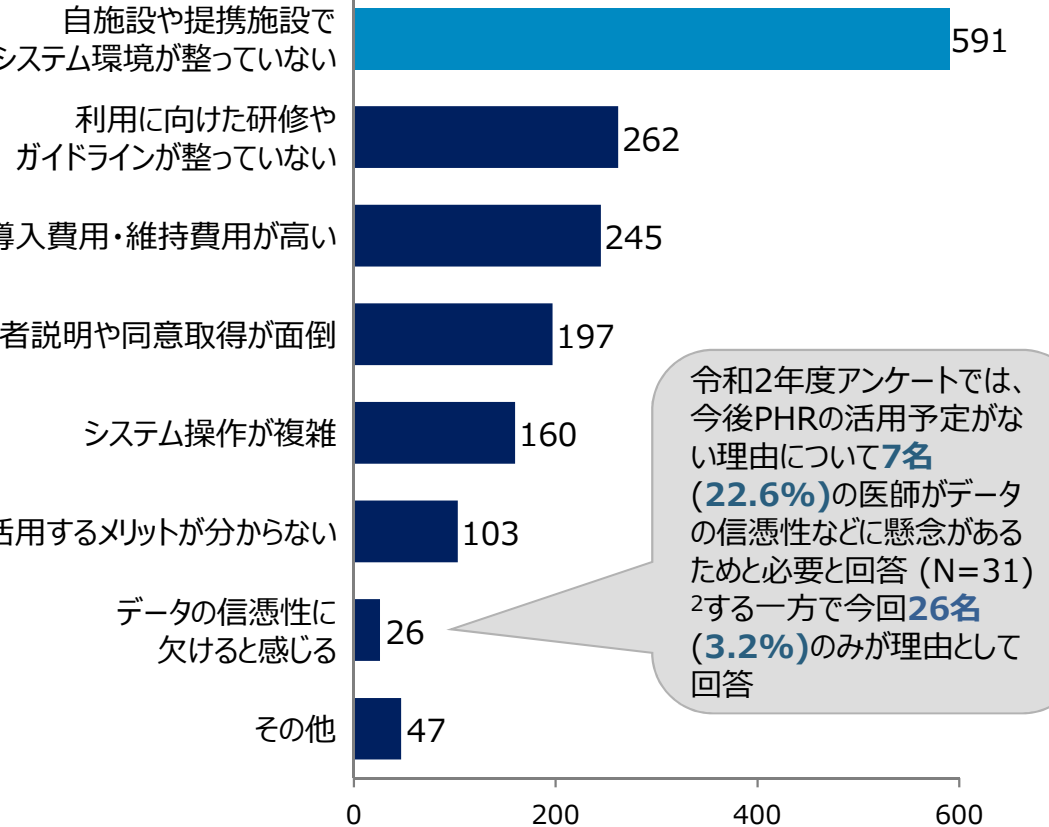
5 更なる活用に向けた施策(3/3)-PHRデータを利用したことのない医師

PHRデータ信憑性の懸念よりも、システム環境不足でPHRデータが利用されないことを鑑み、今後施設にPHRが普及するようシステム環境の構築・システム操作性の向上が求められる

■ 最も多かった回答

今までPHRデータを使用しなかった理由¹

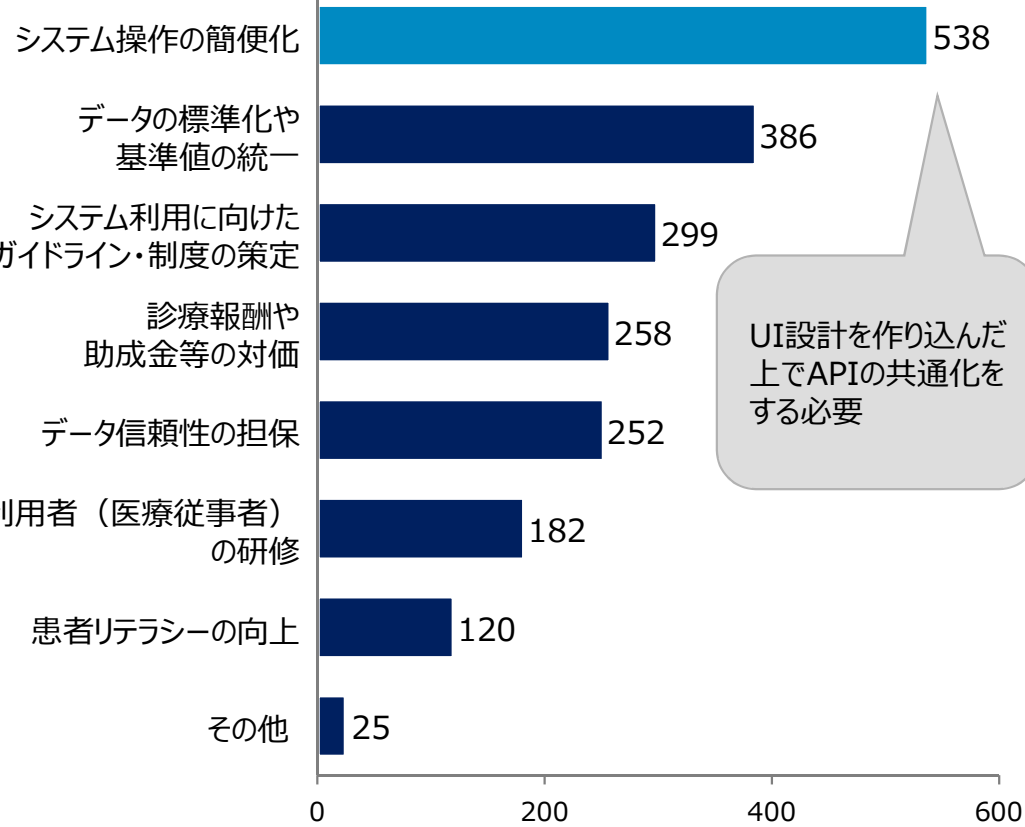
(n=817名：複数回答可) (回答数)



令和2年度アンケートでは、今後PHRの活用予定がない理由について**7名(22.6%)**の医師がデータの信憑性などに懸念があるためと必要と回答(N=31)²する一方で今回**26名(3.2%)**のみが理由として回答

PHRデータを今後活用するために必要なもの¹

(n=817名：複数回答可) (回答数)



UI設計を作り込んだ上でAPIの共通化をする必要

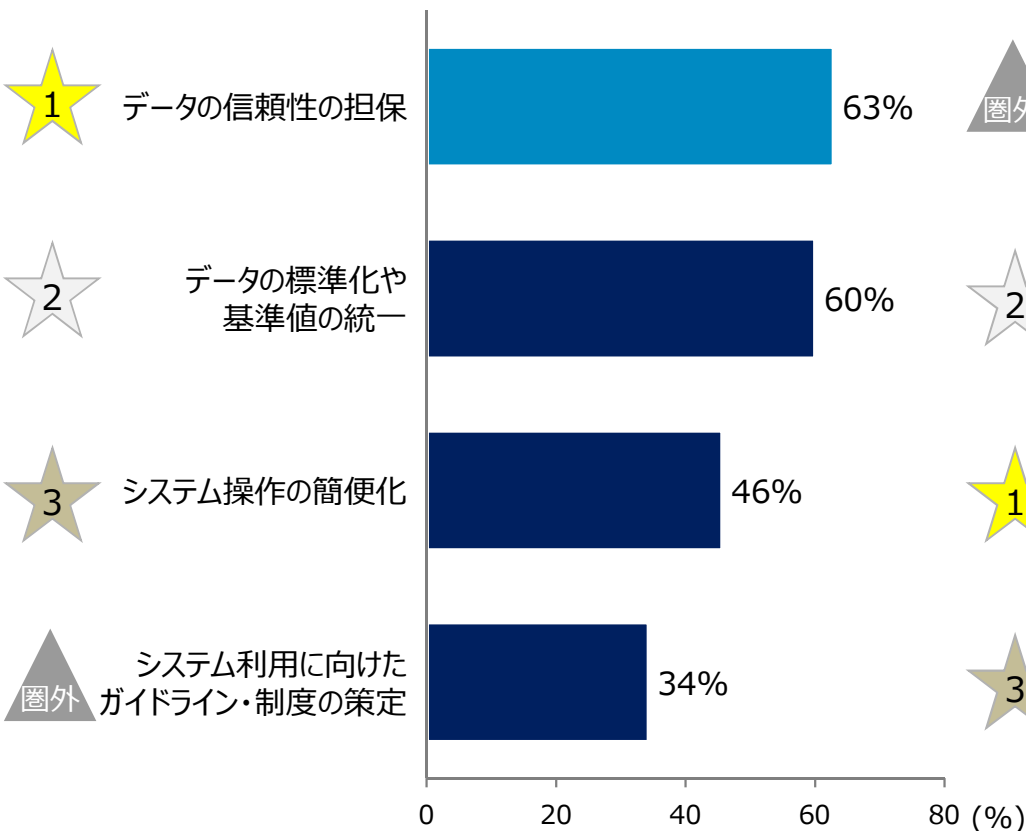
1. 医師へのアンケート調査において、PHRデータを「今までに利用したことがない」と回答したユーザのみを対象とした設問 2. 令和2年度調査資料引用。PHRデータ活用経験がなく、今後も活用予定がない医師を対象

5 経年) PHRデータを利用経験無の医師が感じるPHR必要改善点TOP3

令和2年度に比べデータのシステム操作の易化・データの標準化のニーズが強まった傾向。PHR導入時に足枷となるシステム課題が強く出るなど、PHRの活用は現実味を帯びている

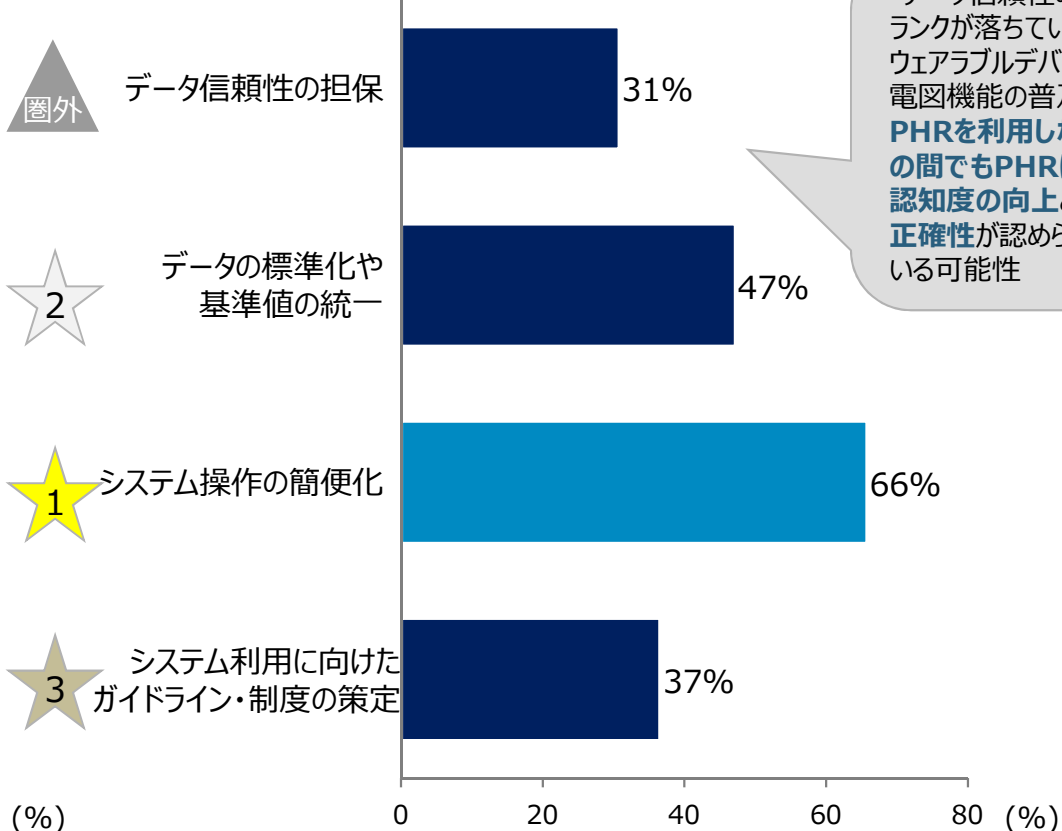
PHRデータを今後活用するために必要なもの¹
(令和2年度)

(n=35名：複数回答可)



PHRデータを今後活用するために必要なもの²
(令和4年度)

(n=817名：複数回答可)



最も多かった回答

“データ信頼性の担保”のランクが落ちているのは、ウェアラブルデバイスの心電図機能の普及など、PHRを利用しない医師の間でもPHRに対する認知度の向上とデータの正確性が認められてきている可能性

1. 令和2年度調査資料から引用。活用したことはないが今後活用したいと感じる医師を対象に今後「バイタルデータや日常生活データを活用していくために」必要な改善点についての回答（複数回答可） 2. 医師へのアンケート調査において、PHRデータを「現在利用している」または「過去に利用したことがある」と回答したユーザのみを対象とした設問